

大人のための ぎふ感染症かわら版

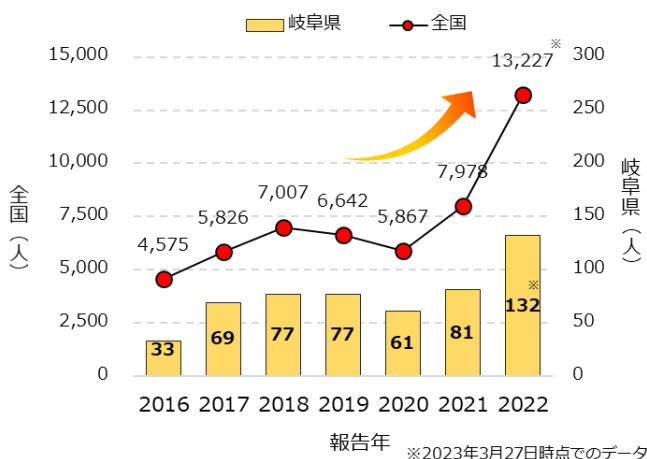
令和5年4月7日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



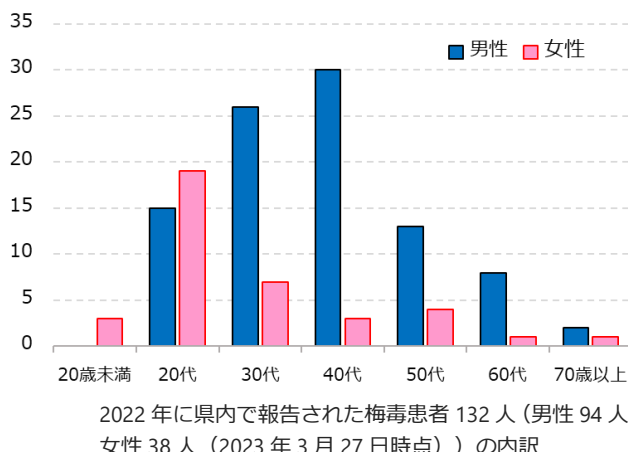
2022年の梅毒患者報告数は過去最高となりました！

性感染症の一つである梅毒の患者数が、近年全国的に急増しています。主として性行為により感染しますが、妊婦から胎盤を通して胎児に感染する場合があります。時に傷口からの侵入によって感染するほど梅毒病原菌の感染力は強く、ごく稀ですが小児が感染してしまう場合があります。

患者報告数の推移



性別・年齢別の患者報告数



妊婦の方へ ～梅毒はお母さんからお腹の赤ちゃんに感染することがあります～

妊娠している女性が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産や早産を起こしたり、生まれてきた赤ちゃんに重い症状を起こすことがあります（先天梅毒）。県内でも2019年以降、先天梅毒の患者が数件報告されています。



育児中の方へ ～梅毒を含む性感染症は、小児にも感染することがあります～

ごく稀ですが、育児中の方が梅毒に感染すると、粘膜や傷口を介した接触により小児に感染する場合があります。梅毒以外にも、性器クラミジアや尖圭コンジローマなど、性感染症が小児に感染した事例がごく稀ながら報告されています。



自分自身のため、またパートナー、そして家族のためにも、早期発見・早期治療が何より大切です。感染の心配のある方は、検査を受けましょう。



★ 県内の保健所でも、匿名・無料で梅毒の抗体検査を受けることができます

保健所によって検査日が決まっており予約が必要です（検査日はHIV抗体検査と同日です。また岐阜市保健所以外の7保健所では、梅毒のみの検査を希望することができます。）。詳しくは下記をご覧ください（県感染症対策推進課ホームページ「HIV抗体検査のご案内」）。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/297713.pdf>



予防方法は？

不特定多数との性行為を避けることが基本になります。

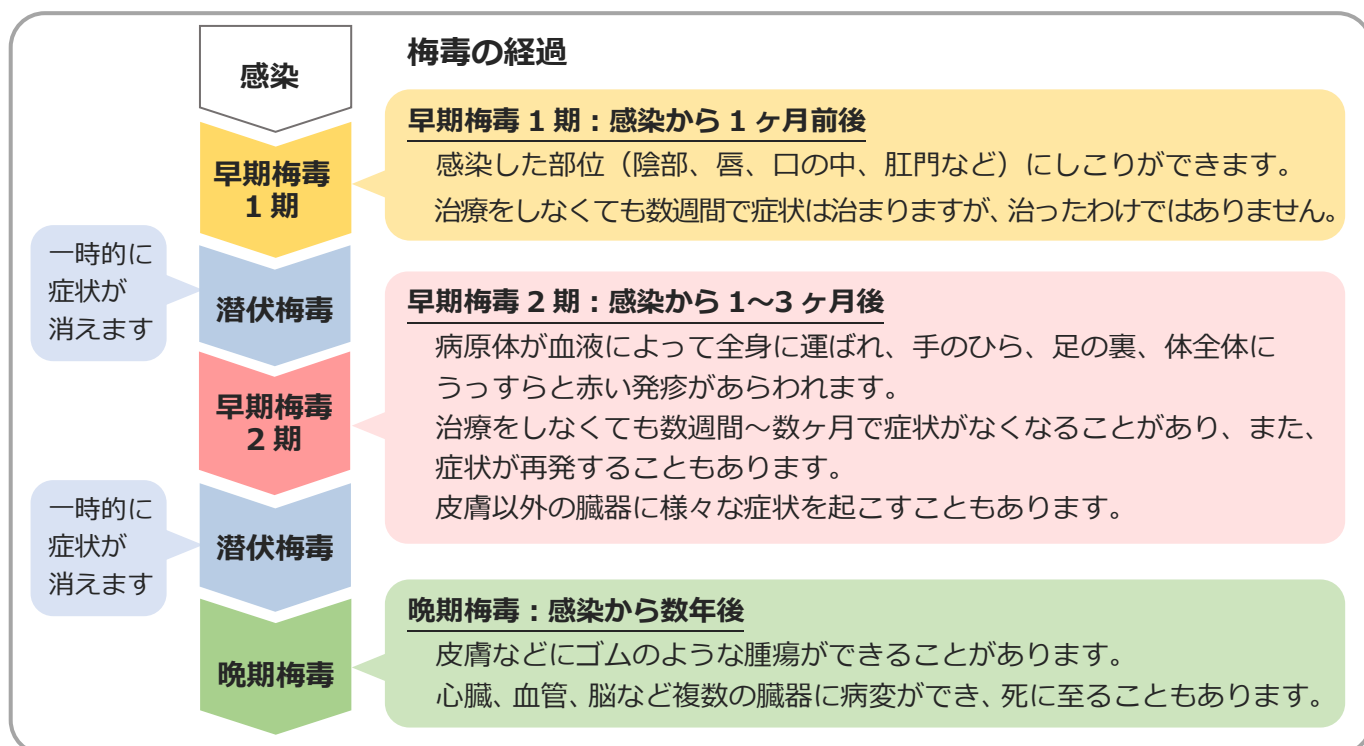
コンドームの使用は、感染部位との接触を防ぐため、感染予防に効果があります。

(ただし、コンドームが覆わない部分の接触で感染する可能性もあるため、100%感染を予防できるわけではありません。)

皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診することが大切です。

どんな症状？

梅毒トレポネーマという病原菌による感染症であり、長い時間をかけて症状が進行します。**感染後も無症状であることが多く、知らない間に他人に感染させてしまう場合もあります。**感染早期に抗菌薬による治療を行うことで完治しますが、**治療をせずに放置すると、数年後に重い症状をおこすことがあります。**

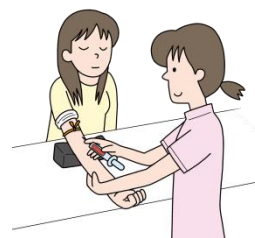


感染しているかどうかを知るには？

梅毒の感染は、医師の診察と血液検査（抗体検査）で判断します。

皮膚科、泌尿器科、婦人科などで検査を受けることができます。

梅毒の感染がわかった場合には、パートナーも検査を受けましょう。



通常は、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症流行状況や予防に役立つ情報をわかりやすく解説した「ぎふ感染症かわら版」を発行しております。

くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

